

かほだより

29-5号
H29(2017).7.31



長野県伊那家畜保健衛生所
〒396-0026 伊那市西町 5764
Tel: 0265-72-2782, Fax: 0265-72-2765
E-mail: inakachiku@pref.nagano.lg.jp
URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/inakachiku/>
伊那諏訪家畜産物衛生指導協会
Tel&Fax: 0265-76-8086

酪農生産性
向上対策事業

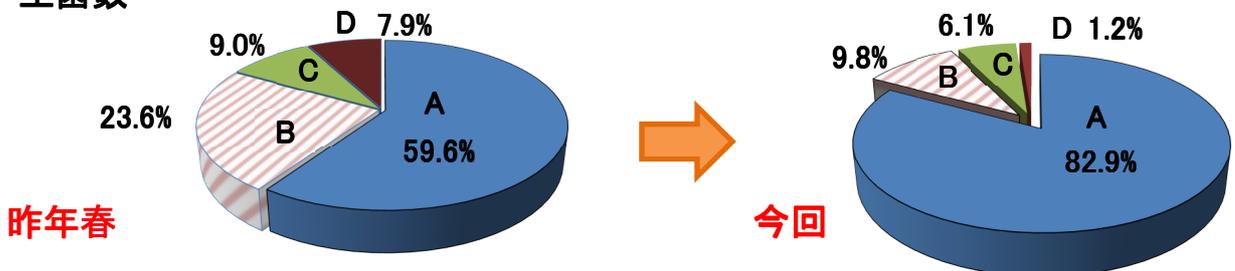
第1回バルク乳スクリーニング検査の集計 結果をお知らせします

～お送りした農場個々の結果と併せ、乳質向上の参考にしてください～

菌種別検査結果

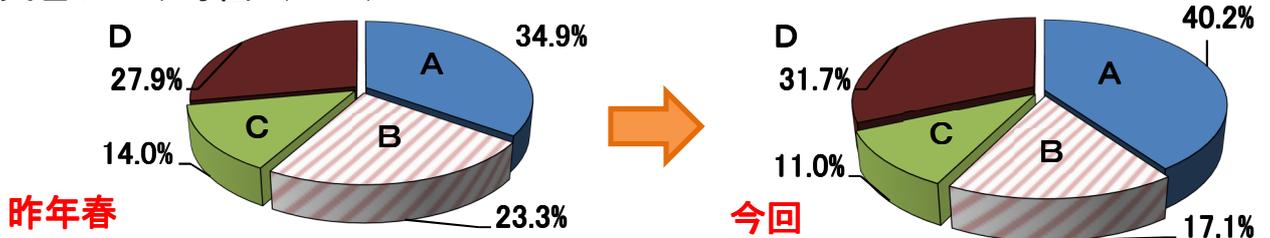
B～Dだった項目は、目標Aに近づくようチェックしてみましょう！
(評価) A:目標、B:やや多い、C:多い、D:非常に多い)

★ 生菌数



Aランクは約83%、B・C・Dランクは(3,000 CFU/mL以上)は約17%でした。
昨年同時期に比べ、Aランク農場が15戸増えました！！

★ 黄色ブドウ球菌 (SA)



Aランク(SA陰性)は約40%、B・C・Dランクは(SA陽性)は60%でした。
昨年同時期に比べ、Aランク(陰性)農場が5戸増えました！

～ SAは菌数の多少にかかわらず対策をとりましょう ～

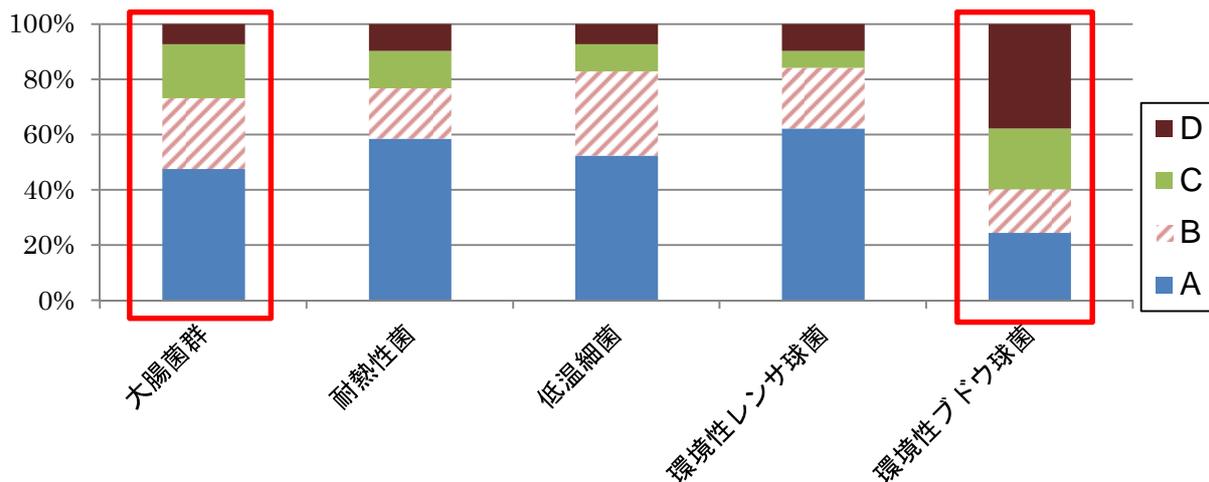
減少したとはいえ、依然多くの農場でSAが検出されています。ご存知の通りSAは感染力が強く、治療が困難で、体細胞数を増加させる主因となります。

- ◎ 対策
- ① 全頭の細菌検査による感染牛(感染分房)の特定
 - ② 当面の対応: 搾乳順序を最後にする、並び替えをする、搾乳衛生の再確認など
 - ③ 乾乳期治療、SA感染牛の淘汰など

※SA感染牛であっても、排菌していない時はSAが検出されない場合があります。
体細胞数が高い牛は感染の疑いがありますので、注意してください。

※SA感染牛の確認等を行いたい方は、家畜保健衛生所までご連絡ください。

★ 環境性の細菌



全体として環境性の細菌が引き続き多数の農場で検出されています。

特に大腸菌群は約半数、環境性ブドウ球菌は約8割がB・C・Dランクでした。

～環境性細菌減少のために再確認！～

- 洗浄水の温度を確認しましょう！！
- 搾乳手順、乳頭の清拭方法を見直しましょう！！
- 搾乳機器の洗浄状態を確認しましょう！！

菌種別のポイントは・・・

<大腸菌、耐熱性菌が多い場合>

搾乳機器の洗浄殺菌に問題がありませんか？ 搾乳システムの洗浄状態やライナーゴムの劣化をチェックしましょう。大腸菌数が多く、耐熱性菌が少ない場合は、搾乳衛生の不良が考えられます。搾乳手順を再度検討しましょう。

<低温細菌が多い場合>

バルク乳の冷却不良やバルクタンク・ミルクラインの洗浄不足が考えられます。冷却温度、洗浄法を再確認しましょう。

<環境性ブドウ球菌、環境性レンサ球菌が多い場合>

環境性ブドウ球菌や環境性レンサ球菌が検出されても、牛がこれらの菌に感染しているとは限りません。これらの菌は環境にも由来するので、菌が多数検出された場合は、環境や搾乳手技に問題があるかもしれません。環境中の菌が多ければ乳房炎にも罹りやすくなります。牛床の汚れや乾燥状態を確認し、乳房や乳頭の汚れを少なくしましょう。また搾乳手順や搾乳方法を見直し、とくに乳頭の清拭方法をチェックしましょう。

※なお、同時に実施した牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV)、マイコプラズマの検査は管内 82 農場全て陰性でした。

また、次回の検査は 11 月を予定しています。採材への御協力をお願いします

問い合わせ・連絡先：伊那家畜保健衛生所保健衛生課 Tel:0265-72-2782, Fax:0265-72-2765

《海外では口蹄疫続発中！引き続き飼養衛生管理基準を守り、防疫対策に万全を期しましょう！》